

厚生労働省医政局歯科保健課長

のぶひろ  
**田口円裕** 氏



《インタビュアー》

**金丸吉昌**・国診協副会長

(宮崎県・美郷町地域包括医療局総院長)

## 地域包括ケアシステム構築と 歯科保健医療ビジョン



**金丸** 本日はお忙しいところ国診協機関誌「地域医療」のインタビューのお時間をいただきましてありがとうございます。歯科保健医療行政を通して、日々ご支援いただいておりますことにも感謝しています。早速ですが、最近の歯科保健医療を取り巻く状況について、また、8020運動の現状についても、お話いただけないでしょうか。

**田口** 8020運動は、80歳まで自分の歯を20本以上保ちましようということです。この運動は平成元年より始まり、平成28年の8020の達成率は51.2%となっています。

一方で歯科医療機関を受診する患者像も変化しています。平成11年では65歳以上の高齢者は2割程度でしたが、平成26年には全体の4割以上が65歳以上の高齢者という状況です。また、歯科疾患の構造も変わってきています。たとえば、むし歯全体の患者さんは、平成8年と26年と比較すると減少しています。ところが高齢者の方は歯が残ってきているので、むし歯が増加しているという状況です。さらに歯周疾患も増えてきています。つまり、高齢者の方々の歯が増えてきているため、状況がかなり変わってきているということになります。

高齢者になって自立度が低下してくると、歯科訪問

診療の必要性が出てきます。歯科診療所は全国で7万か所あります。そのうち実際に歯科診療所が年に1回以上訪問診療を行ったことがあるところは、約1万4,000か所です。つまり全体の2割ぐらいが歯科訪問診療を行っていることとなります。具体的に居宅と施設で見ると、施設系の患者さんの割合がかなり増えてきている状況です。

最近、口腔と全身の健康は関連性があるとよく言われています。特に寝たきりの方や高齢者の方々の口腔管理をきちんと実施すると、誤嚥性肺炎の発症率や発熱発生率が減少すると言われています。また、手術をする前後できちんと口腔管理を行うと、平均在院日数が減ってくるというデータもあります。そういう意味では、周術期の口腔機能管理がだんだん評価されてきている状況です。

もう一点は栄養との関係でいうと、NSTのチームの中に歯科が入ってきちっと介入していくと、栄養状態も変わってきます。これもかなり評価されてきています。

## 歯科保健医療ビジョン策定により、 歯科保健医療の姿が明確に

田口 国では将来的なあるべき歯科保健医療の姿をイメージして、29年12月に「歯科保健医療ビジョン」を策定しました。これは歯科保健医療のあり方が変わってきている状況の中で、歯科保健医療の提供体制の目指すべき姿を、歯科関係者や医療従事者、そして国民の方々に積極的に発信するため、このビジョンをつくりました。この中には地域包括ケアシステムでの歯科医療機関の役割、あるべき歯科医師像とかかりつけ歯科医の機能と役割、具体的な医科歯科連携方策と歯科疾患予防策が示されています。

歯科の医療提供のあるべき姿は、これまでは診療所の中で口腔の疾患だけに対応していました。ところが、今後は2025年に向けて目指すべき姿として、地域包括ケアシステムの構築の中で歯科も関与していかなければなりません。また、医科歯科連携や歯科訪問診療が大事になってきますので、その地域の中での地域完結

型の歯科医療をきちんと構築していくことが必要と思います。そのためには診療所間の連携や病院と診療所の連携が大事になっていくと思います。

そういう中で歯科医療は、治療中心型から治療・管理やいろいろな方々との連携を行う歯科医療が必要になってくると思います。そして、高齢者の方々に対する歯科医療そのものは増えてきますし、自立度が低下すると歯科訪問診療も必要になってきます。また、糖尿病をコントロールするのに、歯科の治療は重要な関連性がありますから、きちんと連携を取りながら行うことが大事になってきます。

平成23年8月から厚労省に「歯科口腔保健推進室」が設立されていましたが、30年7月から省令室として発展的に改組し、いろいろな部局との有機的な連携ができる形に位置づけましたので、この推進室を中心としていろいろな政策を提案していくようになると思います。

金丸 歯科口腔保健推進室は平成30年7月から省令室に格上げになったのですね。

## 歯科衛生士の離職防止・復職支援を さらに推進

田口 はい、30年7月からです。それに合わせて歯科口腔保健推進室（省令室）の方向性としては一次予防、二次予防、三次予防もありますが、やはり歯科の場合には一次予防として、どういうことを行えば疾患の予防ができるのかが、ある程度明確にわかってきましたので、エビデンスレベルの高い方法を今後行っていく必要があると思っています。

それから、歯科衛生士は全国に約12万3,000人の方が就業されています。就業場所は診療所が約90%、病院に約5%です。就業歯科衛生士の数も14年には7万3,000人だったものが28年には12万3,000人と増えてきています。女性の労働力を年齢階級別に見ると、20歳代から30歳代を中心に一回下がって、また上がるということはありますが、歯科衛生士の場合は下がりっ放しで、なかなか戻らない部分があります。やはり復職支援が非常に大事なな

ってきます。最初の25歳未満の時、離職させないような形できちんと支援することは大事だと思います。そういう意味で、29年度予算において歯科衛生士の復職支援に必要な共通プログラムの策定や都道府県単位で復職支援の人材の育成、大学やいろいろなところをお願いをして、復職のための新しい技術的修練ができる体制の整備をして、全体的な復職支援を推進している状況です。歯科衛生士は診療所に勤務している方が多いので、国としては離職防止や復職支援等にさらに予算を入れて取り組んでいこうと思っています。

**金丸** 詳細にお話をさせていただきありがとうございます。最近の歯科保健医療の現状がわかりました。改めて健康寿命の延伸と歯科保健医療が直結していると感じました。まさに、歯科保健医療ビジョンでこれから大きな展開をされようとしているんですね。周術期の問題や生活習慣病についても歯科保健医療が直結していることの理解を深めることができました。

たとえば国の政策として、生活習慣病対策として糖尿病重症化予防を各市町村が取り組んできています。歯科保健医療の分野ではどのような取り組みがあるのでしょうか。

**田口** おっしゃるとおりです。それから8020運動推進特別事業という地方に対しての財政支援があります。そういう事業の中で医科歯科連携に取り組んだり、確保基金等を使って人材養成も行っている地域もあります。地域の中では医科歯科連携のモデル的な部分をつくって、取り組んでいるところはあると思います。

**金丸** そうですね。改めて医科歯科連携が大事だと感じました。まさにキュアからケアというところで動いています。また、多職種連携では県レベルでも市町村レベルでも、三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）で協働して行う動きは、市町村の地域支援事業等に絡んでも、何か動いているように感じています。

**田口** そのとおりだと思います。地域包括ケア会議では、いろいろな職種の方々が当然入ってこられています。やはり国も含めて積極的に参加していこうという気持ちはありますが、歯科からのアピールをすること

も必要です。ただ、医科からもその必要性をわかっていただいて歯科に求めるものは何かということ、言ってもらっていただくことも大事だろうと思います。つまり、医科と歯科のお互いの情報交換が必要だと思います。

## 歯科関係者の身近な事例を発信することが大事

**金丸** そうですね。先日地元宮崎で行われた研修会で、医科歯科連携で取り組むことの重要性を改めて実感したばかりです。

**田口** 国診協が発行している機関誌「地域医療」をよく読んでみると、歯科関係者がよく登場することに気づきます。その歯科の先生方が訪問に行ったり診療所や病院の中での患者さんに対してのケアについての事例をたくさんお持ちだと思います。そしてその身近な事例を発信していただくことが大事だと思います。

**金丸** ありがとうございます。全国の地域で国保直診の歯科の先生方が活躍されています。また、直診全体で医科歯科連携に取り組んで活動しております。

**田口** 今まで歯の本数を残す8020運動が着目されてきましたが、これからは、口腔機能に着目をしてどのように機能低下を防いでいくのか、また口腔機能の維持・向上では、将来的な8020に続く形での大きな国民運動になっていただければ、健康長寿社会の実現に大きく寄与できるものと思います。

さらに健康長寿については、糖尿病重症化予防や高齢者の口腔機能低下をどのように防いでいくのかということだと思います。今までも歯科は重点的に取り組んできた部分もありますが、歯科だけではなくて医科と一緒に考えて、医科歯科連携をしながら食支援のことも含めてお互い協力できることは多くあるものと思っています。

**金丸** 国が地域包括ケアの推進を行い、地域包括ケアシステムの構築という政策展開を通して深まっていく中で、医科歯科連携は一番直結しなければならない姿かと感じました。

# INTERVIEW

INTERVIEW INTERVIEW INTERVIEW INTERVIEW INTERVIEW INTERVIEW INTERVIEW INTERVIEW

**田口** ありがとうございます。現場で取り組んでいる先生方はお互いのことをよく知っています。顔をつき合わせながら、一人の患者さんを診ている医師同士だと、すぐに話すことができますと思います。やはり歯科は診療所の先生方が多いので地域に出ていく機会が少なかったのですが、積極的に連携していくことは大事だろうと思います。

**金丸** おっしゃるとおりだと思います。ところで話は変わりますが、今、国診協で注視していることのひとつは、医師の働き方改革のことで、中山間へき地・離島では、医師数名で24時間診療を担当している厳しい状況の所も多いです。医師の働き方改革では、5年間の猶予期間があったとしても改革の内容によっては、地域医療が崩壊することを危惧しています。一方、歯科の領域における歯科医師の働き方改革はどのようになっていくのでしょうか。

## 歯科医師の需給対策や働き方を含めた議論を考えている

**田口** 歯科診療所では、歯科医師自身が経営者である先生方がほとんどです。ただし、病院勤務の歯科医師の先生方もおられますので、歯科医師のタイムスタディーや勤務実態も含めたデータを、今後調査していこうと考えています。

平成27年に立ち上げた「歯科医師の資質向上等に関する検討会」があります。その中で歯科医師の需給対策、女性歯科医師の活躍の場、歯科医療に求められる専門性等を検討していく中で、それらの議論する前提として将来的な歯科医療のあり方をきちんと議論しておきましょうという意見が出ましたので、先ほどお話しした歯科保健医療ビジョンを策定しました。その中で、将来のあるべき歯科医療や歯科保健医療の提供体制が議論されて形になってきました。それをもとに、今後は需給対策や働き方も含めた議論を行っていこうと考えています。

**金丸** ありがとうございます。国診協が注視しているもう1つは総合診療専門医のゆくえです。同じ価値

観でこの歯科領域に照らし合わせていくと、総合的な「かかりつけ歯科医」となると思いますが、いかがでしょうか。

**田口** 一人の患者さんを生涯続けて診ることが、大事なことだと思います。

**金丸** そうですね。歯科の領域では総合的なしつかりとしたケアが不可欠だと思います。そういう姿でかかりつけの歯科の先生が、医科歯科連携に取り組んでいくことが大事だと感じました。

**田口** かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局がきちんと一人の患者さんをどのようにサポートできるのが大事です。

**金丸** 医師・歯科医師・そして薬剤師との連携が大事ですね。

**田口** 特に高齢者の方はいろいろな薬を飲んでいきますので、連携は大事だと思います。

**金丸** 国保直診の現場の多くは中山間へき地・離島です。少ない医療資源の中で何とか活動しています。この医科歯科連携も含めて地域包括ケアの推進に、地域包括ケアシステムの構築に国診協としてもしっかりと取り組んでいかなければならないと改めて感じました。本日のお話いただいた内容を国診協の会員施設に改めて発信できるチャンスをいただきました。ありがとうございました。

**田口** こちらこそありがとうございました。歯科も含めた国診協の先生方が、常日ごろ取り組んでおられる多職種連携の事例などを、国に情報提供していただきたいと思います。歯科関係者の良い事例を発信する機会は少ないと思いますので、良い事例があればいろいろな地域で紹介させていただきたいと思います。

**金丸** 大変ありがたいお話です。全国の歯科診療所で頑張っている先生方が元気づけられますし、さらなる意欲も湧くお話をいただいたと思います。今後とも引き続きご指導をよろしくお願いいたします。本日は貴重なお時間をいただき本当にありがとうございました。

(インタビュー収録日：2018年8月24日)